蒔絵と書道の出会い

チーム　書どう？

※６月14日　二次審査会　発表資料より

蒔絵と書道の出会い

チーム「『書』どう？」

背景

書道を学ぶ中で、伝統的な文化や芸術に興味を持った。また、長野県には多くの「伝統工芸品」があることを知り、「木曽漆器」に関心を持った。

①「蒔絵」を教材として扱った高校書道の授業実践をもとに、蒔絵と書道を融合させた作品を制作したい。
②作品制作の成果を、学校教育や生涯教育の発展への寄与、地域貢献に生かしたい。

目的

①書道と蒔絵との融合を図った作品制作を行う。
②①の成果を多くの人に発信することで、長野県の伝統文化・芸術の保存や継承に貢献する。

全体の事業計画

本年度

・蒔絵と書道を融合させた作品を制作する。
・書道、蒔絵、漆器等伝統文化や芸術について専門知を深める。
・2月に行われる学生書道展を通して、信州大学の学生及び教職員の皆様、地域の方々に成果を発表する。

来年度以降

・地元の小中学校や高等学校と連携し、蒔絵と書道を融合させた作品を児童生徒と共同制作する。
・学校公開日等を利用し、保護者や地域の方に作品制作の成果を発表する。

本年度の活動計画

5月2日：ちきりや手塚万右衛門商店訪問

6～9月：作品制作のための準備と予行練習

10～11月：蒔絵と書道を融合させた作品制作
３回の講師講座、１回は学生のみで実施

12月～1月：学生書道展の準備

2月：学生書道展の開催

3月：プロジェクトの振り返り
次年度以降の実施計画作成

作品制作案

（手塚希望さんの作品 5月2日 ちきりや手塚万右衛門商店にて）

活動報告

- 2023年9月1日(月)に、第1回講師講座を行った。

筆おろし

【用具の説明】

①筆の穂の中心あたりを水で柔らかくする。

②穂が柔らかくなったら油をつけ、穂に油をなじませる。

※筆をおろすときも、洗う時も、穂先は絶対に傷付けないように注意する。蒔絵筆は穂先が命。細い線が描けなくなってしまう。

感想

・蒔絵筆の「筆おろし」は繊細な細い筆を扱うための準備であるためとても**緊張**した。

・**油をなじませることで乾燥を防ぐ**ということを知り、驚いた。

・「穂先が命」ということを講師の先生に教わり、筆を扱う際には**穂先に細心の注意を払った**。

木製作品の制作

漆の木の表面に傷をつけ、
そこから出てくる樹液を採取したものが
漆液の元になります。
この漆液をろ過し、
木の皮などを取り除いたものを
「生漆（きうるし）」と呼びます。

【事前準備】

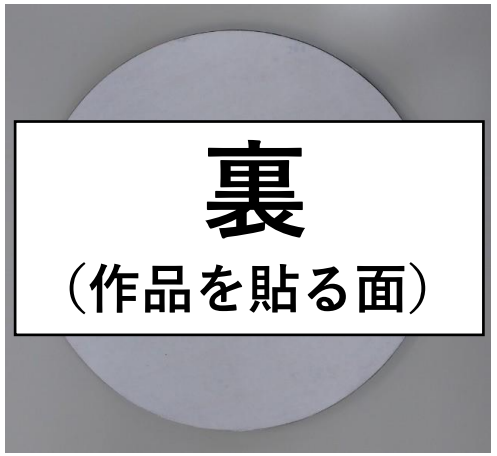
直径18cmの円におさまる文字の大きさで、
自分の選んだ一文字を半紙に書く。

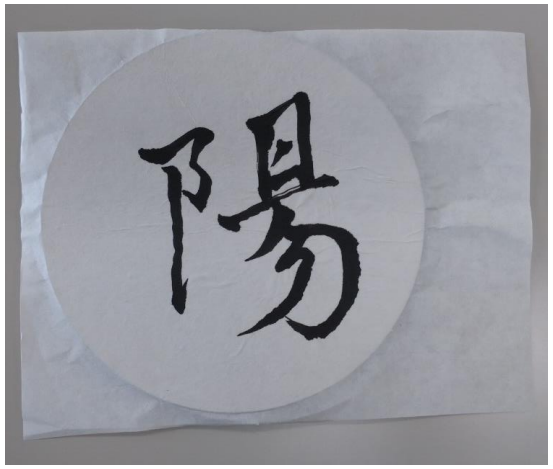
【活動の手順】

①用意しておいた半紙作品を、直径18cmの木製板にボンドで密着させる。

②生漆の密着性を高めるためのスプレー（ミッチャクロンスプレー）を、
　①の板にまんべんなく吹きかける。

※スプレーの噴射は必ず室外で行い、スプレーを吸い込まないよう注意する。





木製作品の制作

木地に透けた生漆を
摺るように塗って仕上げる
木目の美しさを生かした漆
塗りの技法が、
「摺り漆」です。

③木製板と半紙との接着部を、円の輪郭に沿って紙やすりで削り、
　①の板の側面を整える。

④絵の具用筆を使って、生漆を木製板にまんべんなく塗る。
　浮いてしまった生漆は紙でふき取る。（1回目の摺り漆を行う）

※生漆が付着した絵の具用筆は、専用の油で洗浄する。
　洗浄が不十分なまま筆を放置すると、その後使用できなくなってしまう。

※摺り漆を重ねるほど、作品のツヤが増す。
　摺り漆を重ねる際には、その前に塗った生漆が完全に乾燥してから行う。

感想

・漆は普段扱う機会のない材料であったため、特に**摺り漆の工程が非常に難しく感じた**。

・摺り漆の際、**同じ生漆を使っていても、1つ1つの作品の色や模様の出方は異なった**。

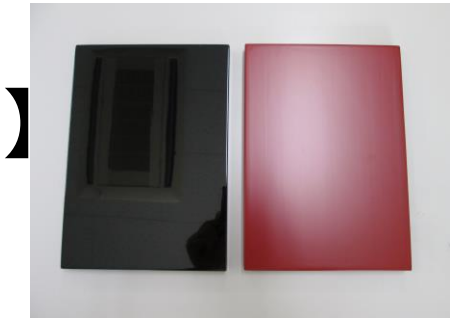
この現象が、非常に面白く感じたとともに、自分独自の作品として愛着がわいた。

これから摺り漆を重ねていく中で、**どのような色や模様の変化が生じるか楽しみになった**。

・摺り漆の工程では、**生漆を手早くまんべんなく塗ること**が求められたが、なかなかうまく実践できなかった。

黒塗り作品の制作

【用具の説明】



【活動の手順】

⓪事前準備：15cm×21cmの紙にデザインスケッチを描く

①デザインスケッチの上に透明フィルムを重ねる

②乾燥漆を蒔絵筆につけ、透明フィルムの上からデザインスケッチを　なぞって下絵を描く

※蒔絵筆で描く線は、始めと終わりを細く、途中を太くする

黒塗り作品の制作

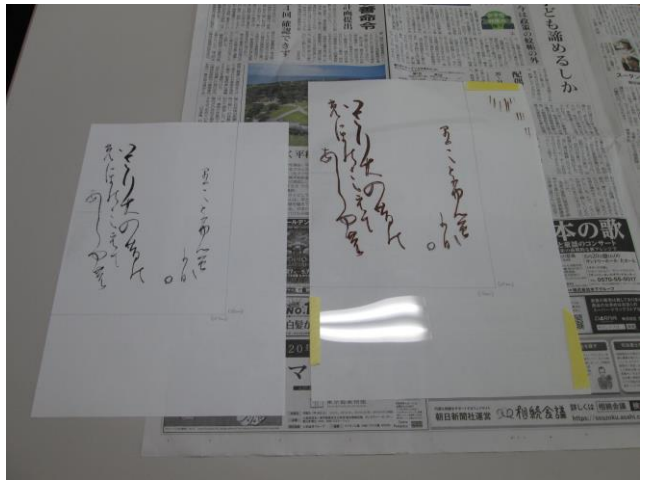
③透明フィルムの上に和紙を重ね、乾燥漆で書いた下絵を和紙に転写する

④下絵を転写した和紙を黒塗りの板に重ね、和紙を上からおさえて黒塗りの板に下絵を転写する

⑤下絵の上に銀粉を蒔く

（生漆で下絵をなぞる際に下絵を見やすくするため。）

⑥生漆で黒塗りの板に転写した下絵をなぞる



黒塗り作品の制作

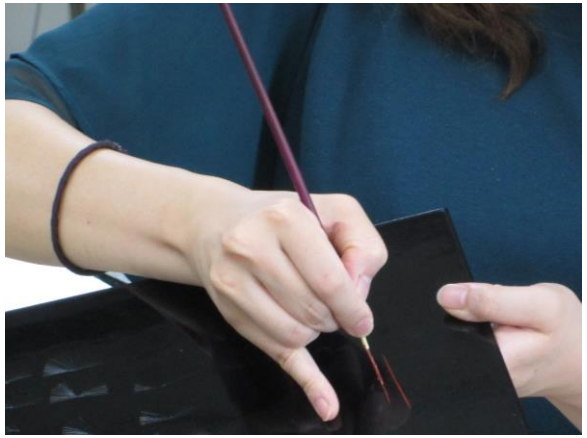
⑧綿を使って粉を蒔く

　綿で強くこすると生漆がはがれてしまうため、綿は優しく叩くようにして動かす。

　絵の中で銀色にしたい部分は銀粉のみを蒔く。その他の色にしたい部分は銀粉と色粉を同時に蒔く。(銀粉を蒔かなければ色粉は接着しないため。)銀粉の量で色を調節する。

感想

- 筆で描く際、小指を軸にして**線を安定させることが難しかった。**上から下にしか線を引くことができないため、**描く順番を頭で考える必要があり、大変だった。**
- 漆という馴染みのないものだった点で難しさを感じた。
- 接着剤の役割を果たす漆に綿がつかないように、**まわりから粉を乗せるように蒔くのが難しかった。**



今後の活動計画

10月21日
第2回講師講座
→木製作品の漆のすり込み作業
　黒塗り作品に漆を塗る作業

10月23日
第3回講師講座
→木製作品の漆のすり込み作業
　黒塗り作品に落款印(＝作品の完成を示すための印)をつける

12月~1月
→学生書道展の準備

2月7日～11日
→学生書道展の開催　(場所：信州大学教育学部図書館)

3月
→本年度のプロジェクトの振り返り、次年度以降の実施計画作成